

【R 5 年度】重点目標の取組・概要（ゆめみヶ丘岸和田の活性化促進[丘陵地区整備事業]）

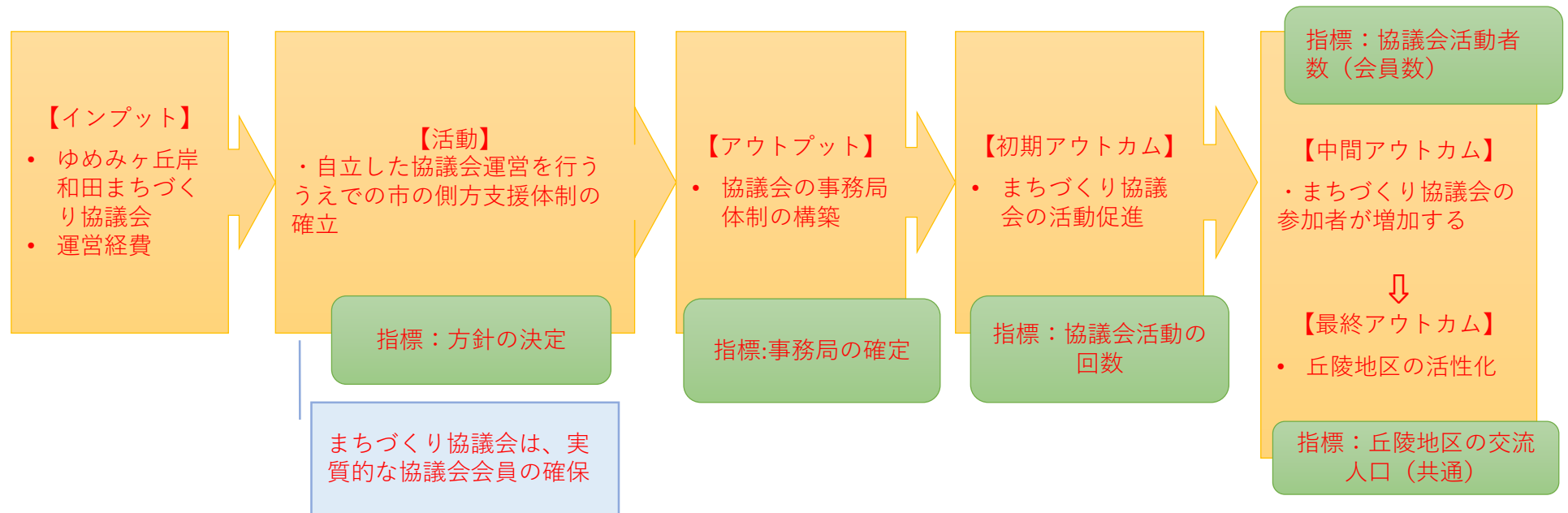
担当課（内線）	都市整備課（3126）	重点目標の方向性	地域活動の活性化に向けた支援
重点目標	都市課題を解決する仕組みづくりの実現	行政の役割	地域のコミュニティ活動を支援するとともに、市民活動に参加しやすい環境づくりを進める

現状と課題	課題に対する取組の内容（めざす成果・期間・対象者・手法など）
・ゆめみヶ丘岸和田まちづくり協議会が今後も自立した活動を継続していけるよう、市としての側方支援体制について協議を継続する必要がある。その中で、市における協議会の位置づけについては今後も調整が必要。	【中期的(4～5年後)にめざす成果】 ・まちづくり協議会を含め、地域課題解決にむけてのコミュニティ活動に対する市の後方支援の仕組みが整い、役割分担が浸透している状態をめざす。 【成果に向けての各年度の進め方】 ・R5以降 事務局の体制確立(事務局長・事務員)及び自立した協議会運営以降も継続した協議会運営の実施 実質的な協議会会員の確保 【R 5 年度の取組内容（期間・対象者・手法など）】 ・自立した協議会運営を行ううえで重要な市の側方支援体制の確立
R 5 年度の事業費（内訳）	
・ゆめみヶ丘岸和田まちづくり協議会の運営経費（市の支出なし）	

R 6 年度以降の想定事業費（ランニング経費）	取組の進捗・成果を測る指標	成果・指標が未達成の場合の取扱い
・ゆめみヶ丘岸和田まちづくり協議会運営(人件費含む)経費（市の支出なし）	・協議会活動の回数（会議、イベント開催等） (2021➡2025) 28回➡30回 ・協議会活動者数（会員数） (2021➡2025) 330人➡500人	・今後も継続した協議会運営の実施を想定

【R5年度】重点目標のロジックモデル（ゆめみヶ丘岸和田の活性化促進【丘陵地区整備事業】）

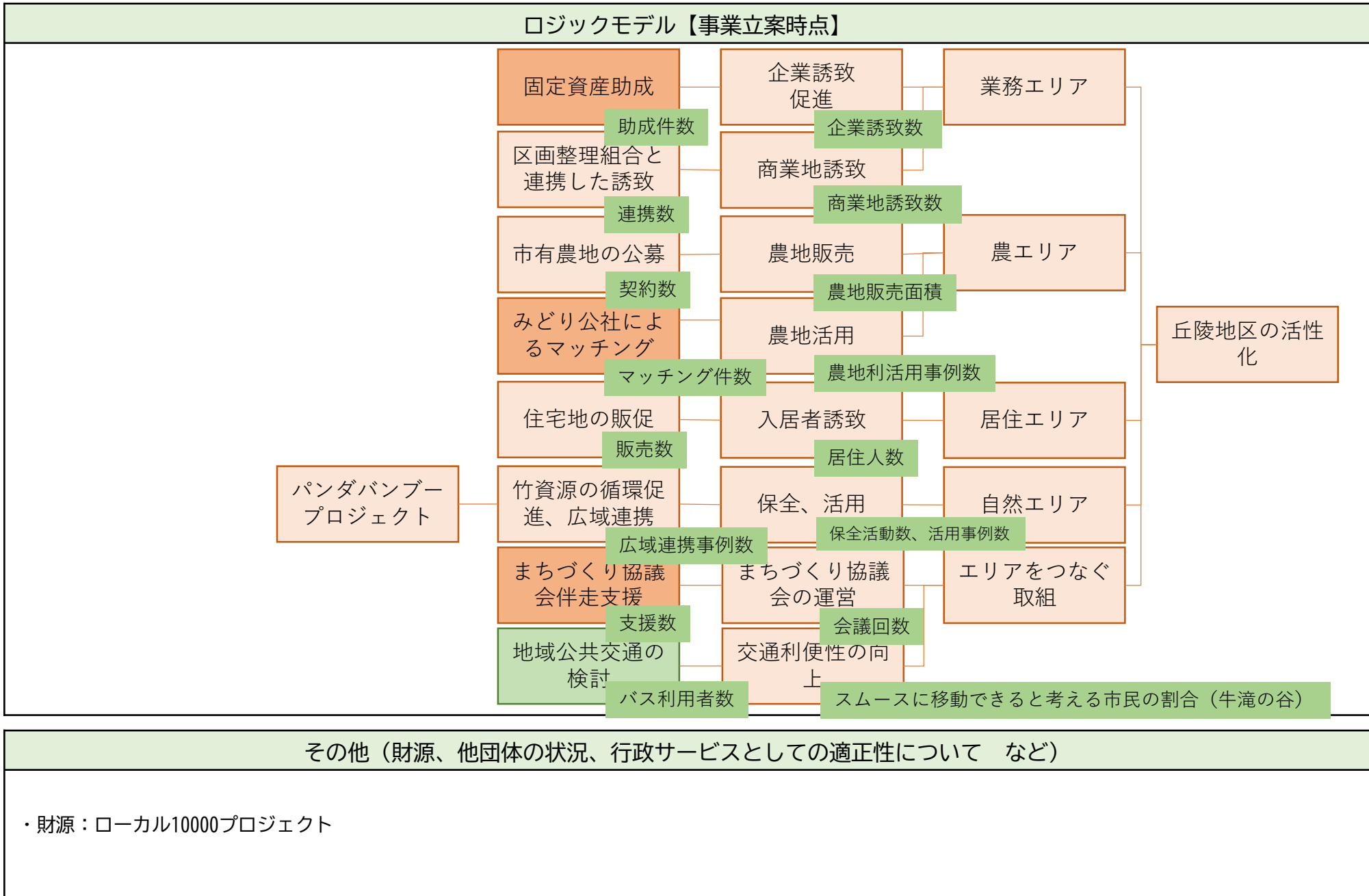
ロジックモデル【事業立案時点】



その他（財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など）

- まちづくり協議会の自主的な運営にむけて側方支援（予算は伴わない）

【R 5 年度】 重点目標の取組・ロジックモデル（丘陵地区の活性化促進[丘陵地区整備事業]）



【R 5 年度】重点目標の取組・評価シート①（ゆめみヶ丘岸和田の活性化促進）

担当課（内線）	都市整備課（3126）	重点目標の方向性	地域活動の活性化に向けた支援
重点目標	都市課題を解決する仕組みづくりの実現	行政の役割	地域のコミュニティ活動を支援するとともに、市民活動に参加しやすい環境づくりを進める

■ 中期的にめざす成果に対する達成度

■ R 5 年度において実施・実現できたこと



- まちづくり協議会を含め、地域課題解決にむけてのコミュニティ活動に対する市の後方支援の仕組みが整い、役割分担が浸透している状態をめざす。

- 後方支援となる職員の会議への参加
- 事務局長の確定
- 会員の確保

■ R 5 年度における達成度（当初の実施予定に対する達成度）



- 事務局の体制確立（事務局長・事務員）及び自立した協議会運営
- 以降も継続した協議会運営の実施
- 実質的な協議会会員の確保

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指 標 名	単位	基準値（年次）	目標値（年次）	R 5 年度実績値
○	協議会活動の回数（会議、イベント開催等）	回	28（2021）	30（2025）	35
○	協議会活動者数（会員数）	人	330（2021）	500（2025）	377

【R5年度】重点目標の取組・評価シート②（ゆめみヶ丘岸和田の活性化促進）

■ R5年度において実施・実現できなかったこと

- ・ 自立した協議会運営に至らなかった。
- ・ 実質的な会員確保に至らなかった。
- ・ 後方支援に関する役割分担の浸透に至らなかった。



■ 課題分析

- ・ 人材発掘の手法について検討が必要。
- ・ 人の交流を生む仕組みが必要。



■ ロジックモデルの振り返り

- ・ アウトプットは一部確定しつつある中で初期アウトカムは実現できている。
- ・ 引き続き事業を推進し、アウトカムの発現に努める。



■ 次年度以降の予定・改善内容

- ・ 継続して後方支援の役割分担を浸透できるよう庁内協議を行う。
- ・ 丘陵地区の活性化に向けて会員が交流する仕組みを検討していく。